

2022年度春季大会の報告

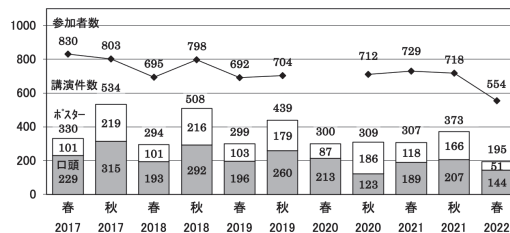
2022年度春季大会は、5月17日（火）～21日（土）の期間にオンライン開催で実施した。

大会は、大会ウェブサイト上に発表資料を掲載し、ウェブサイト上で質疑応答を行うオンラインポスターセッション（3セッション）と、ウェブ会議システム（Zoom、以下同様）によるオンライン口頭セッション（18セッション、各日3ホスト）で行われた。オンラインポスター発表は全講演者を対象とし、口頭発表は希望者のみを対象として実施した。一般講演の発表件数は195件（内、口頭発表144件）であり、講演件数・参加者数ともに近年の3分の2程度であった（第1図）。

5月19日（木）午前は、気象庁講堂（東京都港区虎ノ門）からのライブ配信とウェブ会議システムを併用して、シンポジウム「線状降水帯に関する研究の最前線と今後の展望～メカニズム解明、観測、予測の現状と将来～」が開催され、6件の基調講演と総合討論が行われた。午後は各賞の授賞式が行われ、松井仁志氏に日本気象学会賞が、余田成男氏と岩崎俊樹氏に藤原賞が、橋口浩之氏と三菱電機株式会社通信機製作所インフラ情報システム部（代表松田知也氏）に岸保・立平賞がそれぞれ授与された。その後、各賞受賞者による記念講演が行われた。

気象学に興味を持つ高校生・中学生を対象としたジュニアセッションでは、一般講演と同様のオンラインポスター講演形式で24件の発表があり、そのうち15件が5月20日（金）夕方に、8件が21日（土）午前に、それぞれ2セッションにわかれてウェブ会議システムで口頭発表を行なった。

大会最終日の5月21日（土）午後に、「真鍋淑郎先生ノーベル賞受賞記念特別公開シンポジウム」がオンラインで開催された。最初に「真鍋淑郎先生のノーベル物理学賞受賞講演」が日本語字幕付でビデオ上映され



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数（口頭、ポスター）。2020年度秋季大会以降のポスターの件数は、オンデマンド講演のみを実施した講演の件数。2020年度春季大会は予稿集の発行により大会開催としたため、参加者数は未集計である。

た後、5件の講演が行われた。

ウェブ会議システムにより、5月19日（木）夕方には第11回気象学史研究会が開催された。オンライン交流ツール（gather.town）を用いて、18日（水）昼にはワークライフバランスを考える会が、19日（木）昼には女性会員の集いが、20日（金）夕方と21日（土）昼にジュニアセッションの参加者同士及び学会員との交流会がそれぞれ開かれた。またオンライン交流ツールを用いたオンラインポスター発表（希望者）や、有志による交流イベントも開催された。

今大会の開催に当たり、12の企業・団体からご協賛・ご協力ならびにリクルート対応を頂きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、大会実施にあたり、気象庁、電子情報委員会、教育と普及委員会、人材育成・男女共同参画委員会の皆様にご協力を頂きました。またオンライン交流ツールは、気象大学校の有志のみなさまに準備していただきました。ここに深く感謝の意を表します。

2022年5月 講演企画委員会